

# 花みずき

～ チャレンジする女性たち ～



桑名市では男女共同参画社会～みんなで作ろう みんなが輝く「くわな」！～  
の実現に向け、毎年情報紙を発行しています。

今回のテーマは「チャレンジする女性」です。

さまざまな業種で働く女性の存在を知っていただき、また、若い方々が将来  
性別にとらわれず自分らしく活躍できるよう、職業選択の幅を広げるきっかけに  
していただければと思っています。

## 未経験から電車運転士に みんなに応援されて日々成長

北勢線運転士 中谷圭那さん 小島千里さん（三岐鉄道株式会社 北勢運転区）



大学への通学時に、女性の電車運転士を見つけ「カッコいい」「私もなりたい」と思い、この会社に就職しました。運転士は与えられた仕事をミスなくこなすことが前提の仕事ですが、その中で、何か異常が起きた時が腕の見せ所だと思うので、異常時に対応できる力をさらに身に付けたいと思っています。  
《中谷さん》

もともと鉄道業界を志望してはいなかったのですが、三重県内で働きたいと就職先を探す中、この会社を知り就職しました。せっかく鉄道会社に入ったし、できるなら挑戦してみようと運転士をめざしました。まだ運転士になったばかりで、先輩運転士から「運転が前より上手くなった」と言われると嬉しいです。基本的な操作だけでなく、お客様の様子をよく見て対応し、運転技術をもっと上達させたいと思っています。

《小島さん》



運転士という仕事は、朝早くから夜遅くまで勤務があり、月の半分程は会社で泊まることになるので、体調管理にはとても気を付けています。また運転中、動物が飛び出してくることもあり、ワンマン運転なのでどんな時も1人で対応しなければならず気が抜けません。

大変なところもありますが、真夏にエアコンのない扇風機車両を運転していた時、乗客の小さいお子さんに「頑張って！」と応援してもらったり、気軽に声をかけてもらえたりすることはローカル線ならではの良さだと思います。

私たちは予備知識など全くなく運転士をめざしましたが、家族や友達からは運転士になることに対して「女性なのに大丈夫？」という反応もなく、みんなが応援してくれました。

北勢線の運転士18名中女性は2名ですが、電車の運転に関して特に男性向けの仕事だと感じることはなく、女性だからつらいということもありません。力仕事もあまりないので性別問わずできる仕事です。いろいろと覚えることが多く大変ですが、何でもやってみようというチャレンジ精神が大切だと思います。

## 何事も当たり前と考えず、自分らしくチャレンジ

和菓子職人 藤本安貴さん（ゆめの菓あきそう 代表）

高校生の頃のアルバイト経験から、将来は食に関わる接客の仕事に就きたいと考え、18歳でこの世界に飛び込みました。今から約20年前で他店にも女性の和菓子職人はほとんどおらず、お店で初の女性職人だったので周りは戸惑ったと思います。業界全体が男性社会だったため「女性だからできない」と思われるのが嫌で、体力を付けたり自分で勉強をしたりして、徐々に道を切り開いていきました。同年代の女性職人の知り合いもおらず気持ちが弱ることもありましたが、頑張っって修行を続け25歳で自分のお店を持ちました。



若くしての起業でしたが、今後の結婚・出産・子育てなどのライフイベントを考え、この時期だと思い決心しました。今は0歳児と3歳児の子育て中ですが、夫と協力して仕事との両立ができています。

うちは純和菓子だけでなく、いろいろな要素をとり入れたお菓子づくりをしています。女性をターゲットにしたかわい

いお菓子と店構えを意識し、他とは違うお店もあっていいのかなと思っています。自分で考えて販売したものがお客様に喜んでいただけた時は、とても嬉しくやりがいを感じます。

また和菓子の伝統・技も大切にしたいと考え、昨年11月に東海地方の和菓子研究団体「名和会」新年菓技術コンテストに出品し、最優秀賞をいただきました。新しい形の和菓子に挑戦する中、伝統的な技を競うコンテストでの入賞は本当に嬉しかったです。

和菓子づくりは体力的に大変だと言われますが、それは仕事の仕方が男性中心だからだと思います。もちろん体力は必要ですが、例えば餡を炊く場合、分量を減らし2回に分けて作業すれば、誰でも無理なく仕事を進めることができます。うちのスタッフは全員女性ですが、全ての工程をそのようにすることで、みんながスムーズに作業をしています。当たり前とされている作業も工夫をすれば、女性にももっと門戸が開かれるのではないのでしょうか。

まだまだ和菓子の世界には女性が少ないですが、誰にでもできるということの一つ一つ証明していけば、女性の活躍の場が広がっていくと思います。



《コンテスト最優秀賞作品》

## ものづくりに憧れて、半導体の世界へ

製造オペレーター K Kさん S Yさん

(ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン株式会社 三重工場)

父が半導体関連の会社に勤めており、もともと半導体業界のことは知っていました。工場見学に行ったことがあり、興味もあったため、父と同じ業種の会社を選びました。高校は普通科だったので事前に専門の勉強はしておらず、入社後の研修で半導体がどうやって作られ、どんなことに使われるのかを詳しく知りました。《K Kさん》

最初は就職先として接客業を希望していましたが、ものづくりが好きだったこともあり製造業にも視野を広げて探し、この会社に就職しました。半導体についての事前知識は何もなかったのですが、入社後に研修もあり不安はありませんでした。両親は、交替勤務があることや女性が少ないことから初めは心配していましたが「あなたが頑張るなら」と応援してくれました。《S Yさん》



入社して1か月程、半導体の仕組みなどについて研修を受け、現在は半導体の製造オペレーターをしています。私たちの班は約80人中女性が6人です。最初は女性が少なく不安でしたが、先輩が気さくに話しかけてくれたり、親切に仕事を教えてくれたりするので、今は不安なく働いています。

一般的に「工場勤務といえば男性、事務職といえば女性」と思われているのではないかと感じます。実際、就職活動の時も、工場勤務は男性比率が高いことや体力が必要なイメージがあり、事務の仕事我希望する女の子が多い印象がありました。

しかし今の仕事は男性は多いですが、仕事内容に男女差はなく、体力を使うこともそれほどありません。ただ、昼勤と夜勤の交替勤務に慣れるまでは大変かもしれません。

将来、結婚や出産をしても、仕事は続けていきたいと思っています。福利厚生もしっかりしている会社なので、仕事と生活のバランスを取りながら両立していければと考えています。

まだまだ新人ですが、これからもさまざまな仕事を一つ一つ覚えて成長していきたいと思っています。

## 編集後記

1999年に「男女共同参画基本法」が公布・施行され20年あまりの時間が過ぎましたが、女性が活躍する場の広がりはまだ進んでいないと感じることがあります。そこで、桑名の地で従来男性の職場・男性の仕事とされていた場所で働く5名の女性を取材し、さまざまなお話を聞かせていただきました。

「女性運転士の働く姿を見て憧れて」「この業界で働きたい」「ものづくりに携わりたい」など当初の目的を果たし、みなさんがそれぞれの立場で将来の夢、展望を持っておられることに感銘を受けました。また発せられる言葉の端々からチャレンジスピリットを強く感じ、大変刺激になりました。

編集委員 神谷 敬之介・出口 陽子

### 令和4年度 桑名市男女共同参画推進事業スケジュール（予定）

日時	行事
毎月第2土曜日	女性弁護士法律相談
8月	小中高校生のためのキャリア・ロールモデル関連図書紹介 中央図書館
11月	女性に対する暴力をなくす運動(パープルリボン運動)に関する 啓発パネル展示並びに関連図書紹介 中央図書館・ふるさと多度文学館・長島輪中図書館 (3館同時開催)
2月	男女共同参画に関する啓発パネル展示並びに関連図書紹介 中央図書館
開催日時未定	三重県内男女共同参画連携映画祭
随時	人材育成講座・男性講座等

※スケジュールは都合により変更する場合があります。

詳細につきましては、桑名市ホームページまたはメールマガジンをご覧ください。

### 「男女共同参画メールマガジン」のご案内

桑名市では、男女共同参画に関する情報を発信するため、メールマガジンの配信を行っています。桑名市で実施する男女共同参画連携映画祭をはじめ、人材育成講座、男性講座などの事業の情報を紹介しております。

右の二次元コードから登録できます。

ぜひご登録いただき、事業へもご参加ください。



発行：桑名市役所 政策創造課 女性活躍・多文化共生推進室  
〒511-8601 桑名市中央町二丁目 37 番地  
TEL：0594-24-1413